

当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式／インデックス型	
信託期間	無期限（設定日：2022年1月31日）	
運用方針	SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、FTSEグローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド（ペーパーファンド）	SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	ETF（上場投資信託証券）を主要投資対象とします。
組入制限	当ファンド（ペーパーファンド）	投資信託証券（マザーファンド受益証券および上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 マザーファンド受益証券への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。
	マザーファンド	投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。
分配方針	年1回（毎年1月27日。ただし、休業日の場合は翌営業日）決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分も含めた経費控除後の配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額（以下「みなし配当等収益」といいます。）を含みます。）および売買益（評価益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額とします。）等の全額とします。収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断により分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を定めず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

運用報告書（全体版）

第3期

（決算日：2025年1月27日）

SBI・V・全世界株式 インデックス・ファンド （愛称：SBI・V・全世界株式）

追加型投信／内外／株式／インデックス型

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「SBI・V・全世界株式インデックス・ファンド（愛称：SBI・V・全世界株式）」は、2025年1月27日に第3期決算を行いました。ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。
<https://www.sbiam.co.jp/>

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額			ベンチマーク		投資信託証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率	期中 騰落率	期中 騰落率		
(設定日) 2022年1月31日	円 10,000	円 —	% —	10,000	% —	% —	百万円 3,670
1期(2023年1月27日)	10,356	0	3.6	10,422	4.2	99.5	18,744
2期(2024年1月29日)	13,467	0	30.0	13,664	31.1	99.4	35,839
3期(2025年1月27日)	16,890	0	25.4	17,245	26.2	99.5	52,302

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注2) 設定日の純資産は、設定元本を表示しています。

(注3) ベンチマークはFTSE グローバル・オールキャップ・インデックスを委託会社にて円換算しています。

(注4) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

(注5) ベンチマークの騰落率は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

(注6) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		ベンチマーク		投資信託証券 組入比率
	騰落率	騰落率	騰落率	騰落率	
(期首) 2024年1月29日	円 13,467	% —	13,664	% —	% 99.4
1月末	13,468	0.0	13,671	0.0	99.3
2月末	14,133	4.9	14,356	5.1	99.5
3月末	14,705	9.2	14,940	9.3	99.4
4月末	14,916	10.8	15,148	10.9	99.5
5月末	15,232	13.1	15,471	13.2	99.5
6月末	16,033	19.1	16,312	19.4	99.5
7月末	15,218	13.0	15,497	13.4	99.7
8月末	14,915	10.8	15,185	11.1	99.5
9月末	15,115	12.2	15,458	13.1	99.5
10月末	16,155	20.0	16,466	20.5	99.5
11月末	16,144	19.9	16,463	20.5	99.5
12月末	16,749	24.4	17,092	25.1	99.5
(期末) 2025年1月27日	16,890	25.4	17,245	26.2	99.5

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) ベンチマークはFTSE グローバル・オールキャップ・インデックスを委託会社にて円換算しています。

(注3) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

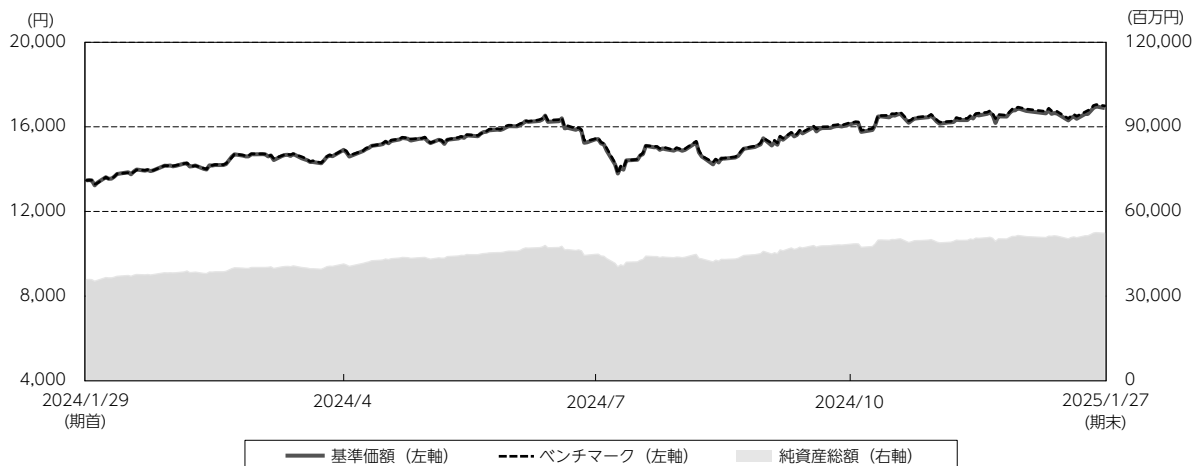
(注4) ベンチマークの騰落率は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

(注5) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しています。

ベンチマーク：FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）
FTSEグローバル・オールキャップ・インデックスとは、大型株、中型株及び小型株までを網羅する全世界の株式市場の値動きを表す時価総額加重平均型の株価指数です。なお、FTSEグローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）は、FTSEグローバル・オールキャップ・インデックスをもとに、委託会社が円換算したものです。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2024年1月30日から2025年1月27日まで）

○基準価額等の推移



期首：13,467円

期末：16,890円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：25.4%

(注1) ベンチマークは、FTSE グローバル・オールキャップ・インデックスを委託会社にて円換算しています。詳細はP1をご参照ください。

(注2) ベンチマークは、期首（2024年1月29日）の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

(注3) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

(注4) ベンチマークの値は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

○基準価額の主な変動要因

上昇要因

- ・米国景気の軟着陸による米国金融政策の緩和への期待
- ・堅調な米国景気を背景とした企業業績の好調持続
- ・人工知能（AI）関連の半導体需要増への期待によるハイテク株高
- ・日米金利差による為替のドル高基調の継続

下落要因

- ・想定以上に堅調な米国景気による金融緩和策の後退
- ・トランプ政権の財政拡大政策によるインフレの高止まり
- ・トランプ政権の関税政策による世界経済の停滞
- ・日本政府の為替介入による円高

○投資環境

<先進国株式市場>

当期、先進国株式市場は上昇しました。前半は、米半導体大手のエヌビディアの業績好調と今後の生成 AI 市場の拡大を期待した買いがハイテク株中心に集まる一方、米連邦準備制度理事会 (FRB) の利下げ観測など金融政策の行方に左右される展開となりました。後半の 2024 年 8 月には、雇用統計が想定以上に悪化したことで、米国経済への懸念が強まる中、一時急落する局面もありましたが、下旬にパウエル FRB 議長が利下げを示唆したことで、買い安心感から下げ止まり、9 月中旬の米連邦公開市場委員会 (FOMC) において大幅な利下げを決定したことで上昇基調となりました。10 月以降も、経済指標が強含むと、金融政策の大幅利下げ観測は後退しましたが、好調な企業業績が株価を下支えしました。さらに 11 月上旬の米大統領選挙で、トランプ氏の勝利が報道されると買いが集まり、米国株式は一段高となりました。ただ、12 月の FOMC で利下げは実施されたものの、根強いインフレ圧力により、先行きの政策金利の見通しが上方修正され、株式市場は軟調な展開になりました。実際に 2025 年 1 月の FOMC では利下げが見送られましたが、好調な企業決算を背景に押し目買いの動きも強く、S&P500 種指数は 6000 ポイント前後の高値圏で期を終えました。

<新興国株式市場>

当期、新興国株式市場は上昇しました。期初から 2024 年 5 月中旬にかけては、米ハイテク株高につれて半導体関連株が買われるとともに、中国当局による株価支援策への期待や、インドの製造業景況感が 16 年ぶりの高水準に達したこともあり、上昇しました。その後も、空売り規制の厳格化や「国家隊」による株買いなどで、中国株は底堅い動きとなりましたが、8 月の米雇用統計の悪化による米景気後退懸念の強まりから、リスク回避の動きで新興国株全体的に下落基調となりました。ただ、下旬にパウエル FRB 議長が利下げを示唆したことで、買い安心感から下げ止まり、9 月中旬の FOMC において大幅な利下げを決定したことで上昇基調に転じました。さらに、中国株は大規模な景気刺激策を受け、大きく上昇しました。その後、期末にかけては、米国の長期金利の上昇やトランプ政権が掲げる関税政策から上値の重い展開となりました。

<為替>

当期、米ドル/円相場は 147 円台で始まりました。2024 年の年明け以降、堅調な米国経済指標により、日米金利差からドル高の動きが強まりました。日銀は 3 月の決定会合において大規模金融緩和策を転換し、マイナス金利を解除しましたが、円高は一時的な動きに留まり、4 月後半に 160 円をつけたことから、日本政府は為替介入を実施し、短期的に 152 円前後まで円高となりました。7 月月初に 160 円を超えると、政府は再び為替介入を実施し、月末の日銀の政策決定会合での利上げ決定により円高に転換しました。一方、米国では 8 月に発表された雇用統計の悪化により、FRB は大幅な利下げを実施し、9 月中旬には 140 円を割り込む水準まで円高が進みました。ただし、10 月以降は堅調な米国の経済指標から、米長期金利が上昇に転じると、再び日米金利差に着目したドル買いが優勢となり、11 月上旬の米大統領選挙でトランプ氏が勝利するとドル買いが強まりました。その後、12 月の FOMC で先行きの政策金利の見通しが上方修正されるとドル高になる一方、2025 年 1 月の日銀の決定会合での利上げにより円高になるなど、日米の金融政策に左右される動きとなりましたが、通期ではドル高水準の 155 円近辺で期を終えました。

○当ファンドのポートフォリオ

<当ファンド>

ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざし、主要投資対象であるSBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド受益証券を高位に組み入れて運用を行いました。

<SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド>

ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざして運用を行ってまいりました。

また、ファンドの運用にあたっては、ザ・バンガード・グループ・インクが運用を行う「バンガード・トータル・ワールド・ストック ETF」を主要投資対象として運用を行いました。

なお、当期の投資信託証券の組入比率に関しては、99%以上の組入比率を維持しました。期末の組入比率は99.5%となっております。

○当ファンドのベンチマークとの差異

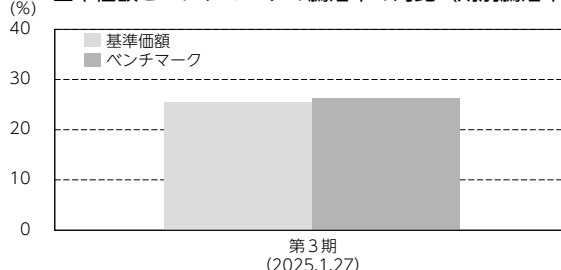
期中における基準価額は、25.4%の上昇となり、ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）」の騰落率である26.2%の上昇を概ね0.8%下回りましたが、個別には以下のようなプラス要因、マイナス要因があります。

（マイナス要因がプラス要因を上回りました。）

主なプラス要因：ファンドとベンチマークにおいて適用される配当税率の差異

主なマイナス要因：ファンドと組入ETFにおける信託報酬、運用コストおよびファンドのキャッシュポジション

基準価額とベンチマークの騰落率の対比（期別騰落率）



（注）ベンチマークはFTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）です。詳細はP1をご参照ください。

○分配金

当期の収益分配は、運用の効率性と基準価額の水準を勘案し見送ることといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第3期
	2024年1月30日～ 2025年1月27日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	6,889

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

<当ファンド>

引き続き、ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス (円換算ベース)」に連動する投資成果をめざし、主要投資対象であるSBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド受益証券を高位に組み入れて運用を行う方針です。また、現金比率を極力抑え連動率を高めていく所存です。

<SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド>

引き続き、「バンガード・トータル・ワールド・ストックETF」を主要投資対象とし、ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス (円換算ベース)」に連動する投資成果をめざして運用を行います。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2024年 1 月30日～2025年 1 月27日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	10 (4) (4) (2)	0.063 (0.024) (0.024) (0.015)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	—	—	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	—	—	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (印 刷)	2 (1) (0) (0)	0.013 (0.008) (0.002) (0.003)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 開示資料等の作成・印刷費用等
合 計	12	0.076	
期中の平均基準価額は、15,231円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入しています。

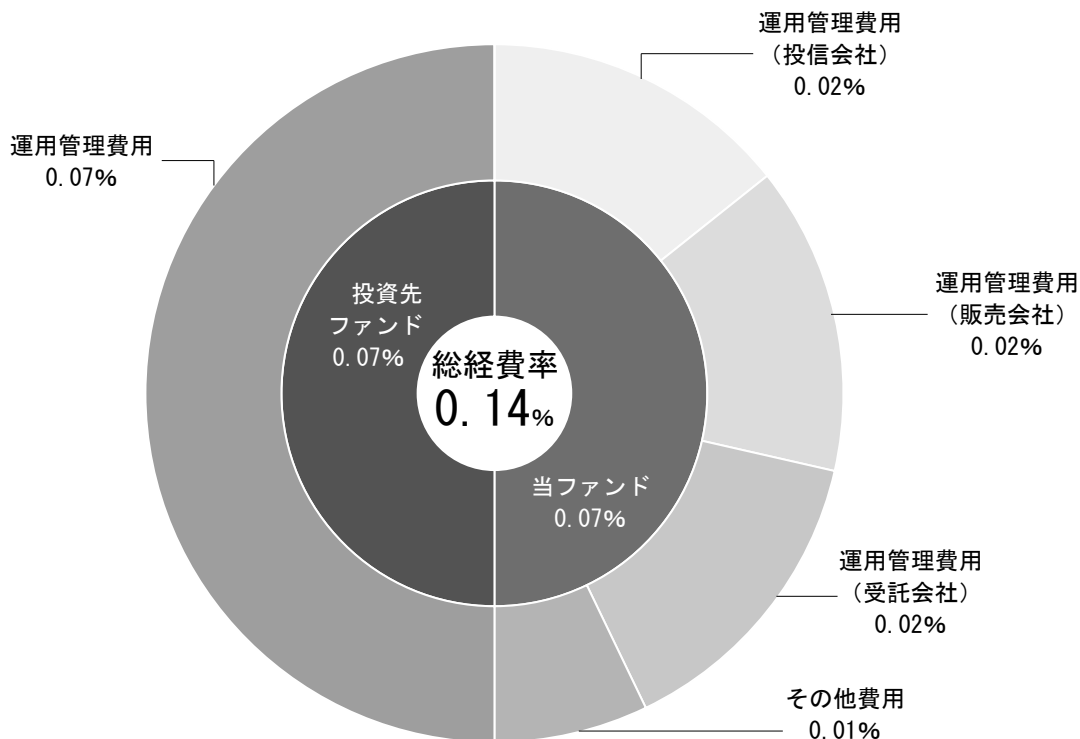
(注4) 売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.14%**です。



総経費率 (①+②)	0.14%
①当ファンドの費用の比率	0.07%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.07%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドまたはマザーファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドについては、運用会社等より入手した概算値を使用している場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2024年1月30日～2025年1月27日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
	千口	千円	千口	千円
SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド	9,072,317	13,835,390	4,746,693	7,223,150

(注) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2024年1月30日～2025年1月27日)

該当事項はありません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2025年1月27日現在)

親投資信託残高

銘柄名	期首(前期末)	当期末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド	26,565,926	30,891,549	52,317,928

(注) 単位未満は切捨て。

マザーファンドにおける組入資産の明細につきましては、後述のマザーファンドの「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2025年1月27日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド	52,317,928	99.9
コール・ローン等、その他	63,857	0.1
投資信託財産総額	52,381,785	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンドにおいて、当期末における外貨建て純資産(52,052,547千円)の投資信託財産総額(52,382,509千円)に対する比率は99.4%です。

(注3) 外貨建て資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。なお、1月27日における円換算レートは、1ドル=155.60円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年1月27日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	52,381,785,509円
コール・ローン等	26,709
SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド(評価額)	52,317,928,800
未 収 入 金	63,830,000
(B)負 債	79,620,547
未 払 解 約 金	63,818,157
未 払 信 託 報 酬	15,037,824
そ の 他 未 払 費 用	764,566
(C)純 資 産 総 額(A-B)	52,302,164,962
元 本	30,966,877,760
次 期 繰 越 損 益 金	21,335,287,202
(D)受 益 権 総 口 数	30,966,877,760口
1万口当たり基準価額(C/D)	16,890円

<注記事項(運用報告書作成時には監査未了)>

(貸借対照表関係)

期首元本額	26,613,409,111円
期中追加設定元本額	9,110,763,463円
期中一部解約元本額	4,757,294,814円

○損益の状況 (2024年1月30日~2025年1月27日)

項 目	当 期
(A)有 価 証 券 売 買 損 益	9,128,881,802円
売 買 損 益	9,902,945,132
売 買 損 益	△ 774,063,330
(B)信 託 報 酬 等	△ 30,244,557
(C)当 期 損 益 金(A+B)	9,098,637,245
(D)前 期 繰 越 損 益 金	5,674,482,679
(E)追 加 信 託 差 損 益 金	6,562,167,278
(配 当 等 相 当 額)	(2,526,201,967)
(売 買 損 益 相 当 額)	(4,035,965,311)
(F) 計 (C+D+E)	21,335,287,202
(G)收 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(F+G)	21,335,287,202
追 加 信 託 差 損 益 金	6,562,167,278
(配 当 等 相 当 額)	(2,545,852,384)
(売 買 損 益 相 当 額)	(4,016,314,894)
分 配 準 備 積 立 金	14,773,119,924

(注1) 損益の状況の中で(A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(819,455,926円)、費用控除後の有価証券等損益額(8,279,181,319円)、信託約款に規定する収益調整金(6,562,167,278円)および分配準備積立金(5,674,482,679円)より分配対象収益は21,335,287,202円(10,000口当たり6,889円)ですが、当期に分配した金額はありません。

本ファンドは、FTSEインターナショナルリミテッド(以下「FTSE」といいます。)、ロンドン証券取引所(以下「LSEG」といいます。)(総称して、以下「ライセンス供与者」といいます。)のいずれによっても、支援、推奨、販売または販売促進するものではありません。ライセンス供与者は、「FTSEグローバル・オールキャップ・インデックス」(以下、「本指数」といいます。)の使用及びいかなる時点における本指数値の利用から生じるいかなる結果に対しても、明示的か黙示的かを問わず、何ら表明や保証を行うものではありません。本指数はFTSEによって編集及び計算されます。ライセンス供与者は、本指数の誤りについて何人に対しても責任を負わず(過失の有無を問わず)、かつ本指数の誤りに関して通知する義務を負いません。FTSE®はLSEGの商標であり、FTSEがライセンスに基づき使用しています。

第3期 運用報告書

(決算日：2025年1月27日)

SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド

受益者のみなさまへ

SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンドの第3期（2024年1月30日から2025年1月27日まで）の運用状況をご報告申し上げます。

当マザーファンドの仕組みは、次の通りです。

運用方針	全世界の株式市場の動きを捉えることをめざすFTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）に連動する投資成果を目標として運用を行います。
主要投資対象	ETF（上場投資信託証券）を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 デリバティブの直接利用は行いません。 外国為替予約取引は、為替変動リスクを回避する目的以外には利用しません。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		ベンチマーク		投資信託証券 組入比率	純資産 総額
	円	期中 騰落率	円	期中 騰落率		
(設定日) 2022年1月31日	円 10,000	% —	円 10,000	% —	% —	百万円 3,670
1期(2023年1月27日)	10,369	3.7	10,422	4.2	99.3	18,779
2期(2024年1月29日)	13,495	30.1	13,664	31.1	99.3	35,849
3期(2025年1月27日)	16,936	25.5	17,245	26.2	99.5	52,318

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注2) 設定日の純資産は、設定元本を表示しています。

(注3) ベンチマークはFTSE グローバル・オールキャップ・インデックスを委託会社にて円換算しています。

(注4) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

(注5) ベンチマークの騰落率は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		ベンチマーク		投資信託証券 組入比率
	円	騰落率	円	騰落率	
(期首) 2024年1月29日	円 13,495	% —	円 13,664	% —	% 99.3
1月末	13,496	0.0	13,671	0.0	99.3
2月末	14,163	4.9	14,356	5.1	99.5
3月末	14,737	9.2	14,940	9.3	99.4
4月末	14,950	10.8	15,148	10.9	99.5
5月末	15,267	13.1	15,471	13.2	99.5
6月末	16,071	19.1	16,312	19.4	99.5
7月末	15,255	13.0	15,497	13.4	99.7
8月末	14,952	10.8	15,185	11.1	99.5
9月末	15,153	12.3	15,458	13.1	99.5
10月末	16,197	20.0	16,466	20.5	99.5
11月末	16,187	19.9	16,463	20.5	99.4
12月末	16,794	24.4	17,092	25.1	99.5
(期末) 2025年1月27日	円 16,936	% 25.5	円 17,245	% 26.2	% 99.5

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) ベンチマークはFTSE グローバル・オールキャップ・インデックスを委託会社にて円換算しています。

(注3) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

(注4) ベンチマークの騰落率は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

ベンチマーク：FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス (円換算ベース)

FTSEグローバル・オールキャップ・インデックスとは、大型株、中型株及び小型株までを網羅する全世界の株式市場の値動きを表す時価総額加重平均型の株価指数です。なお、FTSEグローバル・オールキャップ・インデックス (円換算ベース) は、FTSEグローバル・オールキャップ・インデックスをもとに、委託会社が円換算したものです。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2024年1月30日から2025年1月27日まで）

○基準価額等の推移



当マザーファンドの基準価額は期首13,495円で始まったあと、期末には16,936円となりました。期を通じて騰落率は25.5%となりました。

	期首	期中高値	期中安値	期末
日付	2024/1/29	2025/1/24	2024/2/1	2025/1/27
基準価額 (円)	13,495	17,014	13,269	16,936

○投資環境

<先進国株式市場>

当期、先進国株式市場は上昇しました。期前半は、米半導体大手のエヌビディアの業績好調と今後の生成AI市場の拡大を期待した買いがハイテク株中心に集まる一方、米連邦準備制度理事会（FRB）の利下げ観測など金融政策の行方に左右される展開となりました。期後半の2024年8月には、雇用統計が想定以上に悪化したことで、米国経済への懸念が強まる中、一時急落する局面もありましたが、下旬にパウエルFRB議長が利下げを示唆したことで、買い安心感から下げ止まり、9月中旬の米連邦公開市場委員会（FOMC）において大幅な利下げを決定したことで上昇基調となりました。10月以降も、経済指標が強含むと、金融政策の大幅利下げ観測は後退しましたが、好調な企業業績が株価を支えました。さらに11月上旬の米大統領選挙で、トランプ氏の勝利が報道されると買いが集まり、米国株式は一段高となりました。ただ、12月のFOMCで利下げは実施されたものの、根強いインフレ圧力により、先行きの政策金利の見通しが上方修正され、株式市場は軟調な展開になりました。実際に2025年1月のFOMCでは利下げが見送られましたが、好調な企業決算を背景に押し目買いの動きも強く、S&P500種指数は6000ポイント前後の高値圏で期を終えました。

<新興国株式市場>

当期、新興国株式市場は上昇しました。期初から2024年5月中旬にかけては、米ハイテク株高につれて半導体関連株が買われるとともに、中国当局による株価支援策への期待や、インドの製造業景況感が16年ぶりの高水準に達したこともあり、上昇しました。その後も、空売り規制の厳格化や「国家隊」による株買いなどで、中国株は底堅い動きとなりましたが、8月の米雇用統計の悪化による米景気後退懸念の強まりから、リスク回避の動きで新興国株全体的に下落基調となりました。ただ、下旬にパウエルFRB議長が利下げを示唆したことで、買い安心感から下げ止まり、9月中旬のFOMCにおいて大幅な利下げを決定したことで上昇基調に転じました。さらに、中国株は大規模な景気刺激策を受け、大きく上昇しました。その後、期末にかけては、米国の長期金利の上昇やトランプ政権が掲げる関税政策から上値の重い展開となりました。

<為替>

当期、米ドル／円相場は147円台で始まりました。2024年の年明け以降、堅調な米国経済指標により、日米金利差からドル高の動きが強まりました。日銀は3月の決定会合において大規模金融緩和策を転換し、マイナス金利を解除しましたが、円高は一時的な動きに留まり、4月後半に160円をつけたことから、日本政府は為替介入を実施し、短期的に152円前後まで円高となりました。7月月初に160円を超えると、政府は再び為替介入を実施し、月末の日銀の政策決定会合での利上げ決定により円高に転換しました。一方、米国では8月に発表された雇用統計の悪化により、FRBは大幅な利下げを実施し、9月中旬には140円を割り込む水準まで円高が進みました。ただし、10月以降は堅調な米国の経済指標から、米長期金利が上昇に転じると、再び日米金利差に着目したドル買いが優勢となり、11月上旬の米大統領選挙でトランプ氏が勝利するとドル買いが強まりました。その後、12月のFOMCで先行きの政策金利の見通しが上方修正されるとドル高になる一方、2025年1月の日銀の決定会合での利上げにより円高になるなど、日米の金融政策に左右される動きとなりましたが、通期ではドル高水準の155円近辺で期を終えました。

○当ファンドのポートフォリオ

ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざして運用を行ってまいりました。

また、ファンドの運用にあたっては、ザ・バンガード・グループ・インクが運用を行う「バンガード・トータル・ワールド・ストックETF」を主要投資対象として運用を行いました。

なお、当期の投資信託証券の組入比率に関しては、99%以上の組入比率を維持しました。期末の組入比率は99.5%となっております。

○当ファンドのベンチマークとの差異

期中における基準価額は、25.5%の上昇となり、ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）」の騰落率である26.2%の上昇を概ね0.7%下回りましたが、個別には以下のようなプラス要因、マイナス要因があります。

（マイナス要因がプラス要因を上回りました。）

主なプラス要因：ファンドとベンチマークにおいて適用される配当税率の差異

主なマイナス要因：ファンドと組入ETFにおける信託報酬、運用コストおよびファンドのキャッシュポジション

○今後の運用方針

引き続き、「バンガード・トータル・ワールド・ストックETF」を主要投資対象とし、ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざして運用を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2024年1月30日～2025年1月27日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売買委託手数料	円 —	% —	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有価証券取引税	—	—	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) その他費用 (保管費用)	1 (1)	0.008 (0.008)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
合 計	1	0.008	
期中の平均基準価額は、15,268円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 項目ごとに円未満は四捨五入しております。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○売買及び取引の状況

(2024年1月30日～2025年1月27日)

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国	アメリカ	口	千ドル	口	千ドル
	VANGUARD TOT WORLD STK ETF	448,003	50,766	21,533	2,334

(注) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2024年1月30日～2025年1月27日)

該当事項はありません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2025年1月27日現在)

外国投資信託証券

銘柄名	期首(前期末)	当 期 末			比 率	
	口 数	口 数	評 価 額			
			外貨建金額	円換算金額		
(アメリカ)	口	口	千ドル	千円	%	
VANGUARD TOT WORLD STK ETF	2,317,801	2,744,271	334,526	52,052,344	99.5	
合 計	口数・金額	2,317,801	2,744,271	334,526	52,052,344	99.5
	銘柄数<比率>	1	1	—	<99.5%>	

(注1) 円換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。

(注2) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2025年1月27日現在)

項 目	当 期 末	比 率
	評 価 額	
	千円	%
投資信託受益証券	52,052,344	99.4
コール・ローン等、その他	330,165	0.6
投資信託財産総額	52,382,509	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 当期末における外貨建て純資産(52,052,547千円)の投資信託財産総額(52,382,509千円)に対する比率は99.4%です。

(注3) 外貨建て資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。なお、1月27日における円換算レートは、1ドル=155.60円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年1月27日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	52,382,509,443円
コール・ローン等	330,162,251
投資信託受益証券(評価額)	52,052,344,390
未 収 利 息	2,802
(B)負 債	63,830,000
未 払 解 約 金	63,830,000
(C)純 資 産 総 額(A-B)	52,318,679,443
元 本	30,891,549,835
次 期 繰 越 損 益 金	21,427,129,608
(D)受 益 権 総 口 数	30,891,549,835口
1万口当たり基準価額(C/D)	16,936円

<注記事項(運用報告書作成時には監査未了)>
(貸借対照表関係)

期首元本額	26,565,926,201円
期中追加設定元本額	9,072,317,588円
期中一部解約元本額	4,746,693,954円
期末における元本の内訳	
SBI・V・全世界株式インデックス・ファンド	30,891,549,835円

○損益の状況 (2024年1月30日~2025年1月27日)

項 目	当 期
(A)配 当 等 収 益	825,851,149円
受 取 配 当 金	825,301,975
受 取 利 息	598,218
支 払 利 息	△ 49,044
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	9,034,478,868
売 買 損 益	9,039,019,156
売 買 損	△ 4,540,288
(C)そ の 他 費 用	△ 3,704,248
(D)当 期 損 益 金(A+B+C)	9,856,625,769
(E)前 期 繰 越 損 益 金	9,283,887,473
(F)追 加 信 託 差 損 益 金	4,763,072,412
(G)解 約 差 損 益 金	△ 2,476,456,046
(H) 計 (D+E+F+G)	21,427,129,608
次 期 繰 越 損 益 金(H)	21,427,129,608

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

〈ご参考〉組入投資信託証券の概要

投資信託証券の名称	投資対象	連動する指数	経費率(年率)	委託会社
バンガード・トータル・ワールド・ストックETF	全世界株式	FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス	0.07%	ザ・バンガード・グループ・インク

組入上位10銘柄	比率
Apple Inc.	4.1%
NVIDIA Corp.	3.6%
Microsoft Corp.	3.6%
Amazon.com Inc.	2.4%
Alphabet Inc.	2.3%
Meta Platforms Inc.	1.5%
Tesla Inc.	1.3%
Broadcom Inc.	1.2%
Berkshire Hathaway Inc.	1.0%
Taiwan Semiconductor Manufacturing Co. Ltd.	0.9%

組入上位業種	比率
テクノロジー	27.6%
金融	15.0%
一般消費財・サービス	14.5%
資本財・サービス	13.6%
ヘルスケア	9.4%
生活必需品	4.7%
エネルギー	4.0%
素材	3.1%
公益事業	2.8%
不動産	2.7%

出所：ザ・バンガード・グループ・インクの資料を基にSBIアセットマネジメントが作成
 (注) 2024年12月31日時点の比率です。

上記組入投資信託証券は第3期期末時点で取得可能なデータを記載しており、将来変更される場合があります。